

17. 太田川水門操作模型について

建設省太田川工事及事務所 水田 允喜

・ 中国地方建設局企画室 坂本 治夫

・ 太田川工事及事務所 神谷 隆太郎

・ " 奇藤 尚久

概 要

太田川は 広島県の中央部を流れて広島湾に流入する流域面積約 $1,690 \text{ km}^2$
流路延長約 110 km の河川である

計画高水流は $6,000 \text{ m}^3/\text{s}$ であり このうち $2,000 \text{ m}^3/\text{s}$ を広島市内流川に 残
りの $4,000 \text{ m}^3/\text{s}$ を新に開削した放水路に流す計画で 改修が進められている

分流構造物として 放水路側に 可動堰 本川側に分水堰を設置し それ
ぞれ設けられた水門の有機的操作で 本川-放水路の流量配分を行う計画で
ある

本川-放水路の分水点付近の堤防法線形状 分流構造物の位置 構造など
については建設省土木研究所で 越流堰の減勢エについては 防災研究協会
での模型実験で決定され 現在可動堰はすでに完成し 分水堰についてもほ
ぼ浚功の段階に至っている

本実験は 三次の模型を使って分水堰 可動堰にもうけられた水門の操作
と 分流量の関係を見出し 水門の操作規定を決定する基礎資料とするため
行ったものである

なお 詳細は 別冊資料を参照されたい